

2012年1月1日～2023年12月31日の間に 当科において腸閉塞解除の治療を受けられた方及びご家族の方へ

「最終的に外科手術を要した単純性腸閉塞症例の検討」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学附属病院 中央検査部	主任技師	竹之内陽子
研究分担者	川崎医科大学 総合臨床医学	特任教授	畠 二郎
研究分担者	川崎医科大学 消化器内科学	准教授	松本 啓志

1. 研究の概要

イレウス管留置術で治らずに手術が必要となった腸閉塞について調査します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2012年1月1日～2023年12月31日の間に川崎医科大学附属病院において術前に腹部超音波検査がなされ、イレウス管留置術では治らずに手術が必要となった腸閉塞の方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2026年3月31日

3) 研究方法

研究者が上記の研究対象期間に対象の方の診療情報をもとに、手術を要した単純性腸閉塞の超音波所見について分析を行います。

4) 使用する情報の種類

年齢、性別、過去の既往（手術歴、腸閉塞入院歴）、経過（イレウス管留置期間など）、各種画像（腹部超音波、腹部単純X線、腹部CT、イレウス管造影）手術記録

5) 情報の保存及び二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学附属病院内視鏡・超音波センター内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、（2025年12月31日までの間に）下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<お問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 中央検査部

氏名：竹之内陽子

電話：086-462-1111 内線 23513（平日：8時30分～17時00分）

E-mail：proton@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受け入れ及び使用はありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。